

x 「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 浩養小学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

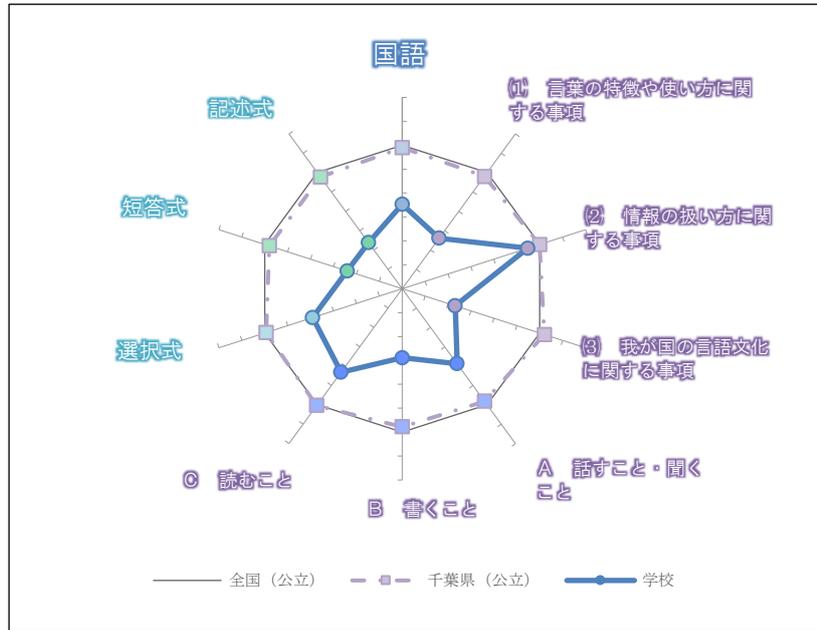
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



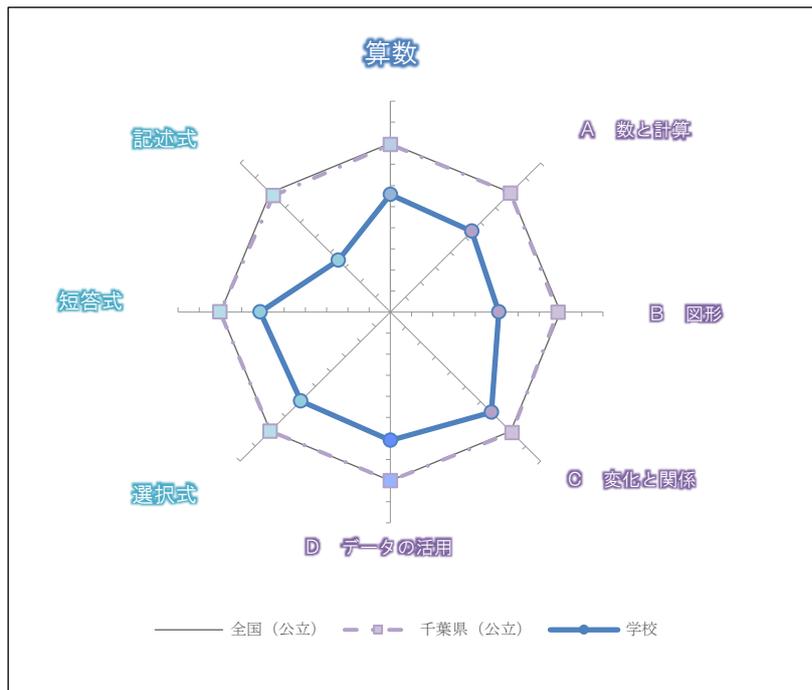
【特徴と現状】

- 国語科の全体の正答率は、全国・県平均共に下回る結果となりました。
- 全国の子どもの正答率と比べて、本校の子どもの正答数には二極化が見られました。その結果から、正答率が下がっています。
- 内容でみると、目的や意図に応じて、自分の考えを工夫して書き表す力を問う問題を扱った「情報の扱い方に関する事項」の正答率が良かったです。書くことに課題があり、問いに対する条件不足や無回答による誤答が目立ちました。
- 問題形式では、記述式に課題があります。書くことに慣れていないことも原因の1つと考えられます。

【改善方策等】

- 基礎基本を徹底することにより、改善を図っていきます。朝の帯の時間で、音読や視写を繰り返して行っていますが、今後も継続していきます。また、漢字なども同様に繰り返し練習を行うことで、定着を図ります。
- 読み聞かせは、週に1回、全学年で読み聞かせを実施しています。今後も継続していくことで、読書へ興味・関心が深まるようにしていきます。読書に親しみ、読解力が伸びていくように、学校図書館司書と図書担当が連携し、図書室の環境整備や読書を楽しめるような企画していきます。
- 書くことに慣れ親しめるよう、書く活動を多く取り入れます。自分の考えや学習のまとめ、振り返りなど、意図的・計画的に指導を重ねていきます。例えば、新聞の要約等の学習や、国語辞典を授業の中で活用していきます。

算 数



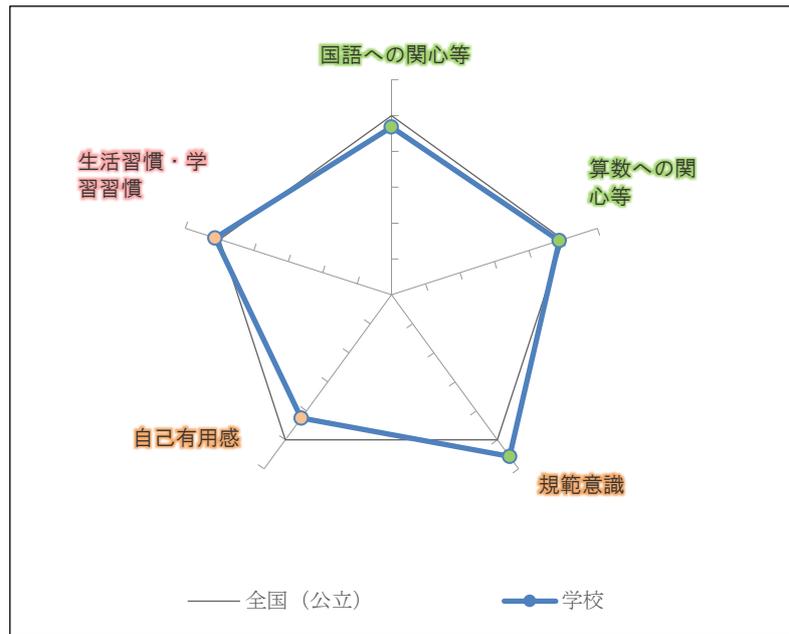
【特徴と現状】

- 算数科の全体の正答率は、全国・県平均共に下回りました。しかし、国語に比べると内容の正答率のバランスはよく、設問によっては正答率が全国を越えていました。
- 内容については、全国の傾向と同様に「図形」の正答率が低い結果でした。深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題がみられました。「変化と関係」については、正答率が改善されました。グラフや表などのデータを読み取ることができるようになってきました。
- 問題形式は、記述式に課題があります。無回答の児童も見られ、問題を理解すること以外にも、自分の考えを書くことに慣れていないことが考えられます。

【改善方策等】

- 朝の帯時間で、基礎学力の向上を図る、計算（100マス計算や計算の学び直し等）を継続していきます。記録もとることで、自分の伸びが感じられるにしていきます。
- ICT 機器を効果的に活用することで、自分の考えを整理し理解できるようにしていきます。
- 「図形」に関しては、意味や性質について考える学習を取り入れていきます。全国学力学習調査の図形の問題を解き直して、今後の学習につなげていきます。また、職員が実際に問題を解いて考察する研修を実施することで、授業改善に努めていきます。
- 学習の要点を意識して、まとめや振り返りを自分の言葉で書く学習を積み重ねることで、学力の向上を図っていきます。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 児童質問調査は、比較的バランスが良い結果が得られています。数値は、5つの調査項目中、3つが数値を下回ってはいますが、大きく数値が下回っているものはありませんでした。「自己有用感」の数値が一番低くなっていますが、令和5年度と比べると回復傾向にあります。「規範意識」は、全国の平均値よりも上回っていました。

3 まとめ

- 学校においては、全国学力・学習調査の結果から、今後も現状と課題を分析していきます。学力向上部会で対策をねり、職員間で共有することで、児童の課題の克服を図っていきます。
- 学力向上に向けて、朝の学習の時間を活用し基礎基本が定着するように、全校で100マス計算や四則計算、視写や暗唱を全校で継続的に取り組んでいきます。
- 継続した学びができるように、「思考し表現する力」を高める実践プログラム（千葉県で授業改善の推進を図るために考えられた授業のプログラム）の研修を行います。そのプログラムに基づいた授業の展開、ノートの取り方、授業規律などの充実を図っていきます。
- 学校司書と連携し、読書活動の推進を継続します。全校での読み聞かせも、年間を通して実施していきます。
- 学年×10分を目安に、継続的な家庭学習への取り組みに御協力ください。また、お子様の実態に応じて、自学などの取り組みに対する励ましもお願いします。
- 携帯やタブレットなどの使用方法や時間など、御家庭でのルール作りへの御協力を引き続きお願いします。